

兵庫県災害医療センターラダー

ラダーレベル(看護経験年数)		ラダーⅠ(1年目)	ラダーⅡ(2年目～)	ラダーⅢ(5年目～)	ラダーⅣ(6年目以上)
レベルの定義		自立に向けた指導を必要とするレベル	自律的に日常看護業務を遂行し新人指導まで行うレベル	看護実践においてロールモデルとなるレベル	看護実践におけるロールモデルを育成するレベル
目標		<ol style="list-style-type: none"> センター職員・社会人として自覚を持ち職業人として行動できる 組織やチーム内で自分の役割を認識しメンバーの一員として行動できる マニュアルにそって、または、指導を受けながら看護を実践できる 受け持ち看護師の役割を理解し、支援を受けて看護が実践できる 患者の生命や基本的権利を意識し尊重できる 指導を受けながら患者のリスクをアセスメントし予防的ケアが実践できる 異常を察知し、緊急性を判断できる 一次救命処置を実施できる 救急患者や家族の心理が理解できる 	<ol style="list-style-type: none"> 自律して受け持ち患者の看護実践ができる 組織やチーム内で自分の役割を認識しメンバーシップを発揮できる 日々のリーダーの役割ができる 新人のプリセプターの役割ができる チーム目標に連動した自己の目標の立案・実践ができる 患者の生命や基本的権利を尊重できる 患者のリスクをアセスメントし予防的ケアが実践できる 看護業務を効率的にできる 急変時に必要な処置の根拠を理解し実践できる 救急患者の特殊性を理解した看護実践ができる 救急患者及び家族の擁護者になることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 個性を尊重し、患者満足度の高い看護が提供できる 組織やチームの一員として効率的なチーム運営に貢献できる 習熟度が未熟な看護師に対して知識や技術の習得を支援できる メンバーに看護を語る事ができる 看護実践においてリーダーシップを発揮できる 患者の生命・人権を尊重した行動を率先垂範できる リスク感性を高め患者を取り巻く状況の危険を予見し行動できる 看護業務の改善に向けて問題解決的に取り組むことができる 地域連携に携わることができる 医療界、看護界の動向に関心をもつことができる 救急看護師の役割を理解し業務を遂行できる チームの一員としての行動がとれ多職種との連携が取れる 患者や家族の心理を理解し適切な対応ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 看護実践の役割モデルとして質の高い看護サービスが提供でき、自己の看護を概念化してスタッフに語る事ができる 専門性を発揮しEBNに基づいた看護を提供することができる 部署の目標を達成するための活動を推進することができる 患者・家族の生命や人権を尊重するスタッフを育成することができる リスク感性を高め患者を取り巻く状況の危険を予見し、常に周囲に情報を発信し続けることができる 看護業務の改善に向けて問題解決的に取り組むことができる 地域連携を推進することができる 患者サービス・顧客満足度の視点から他部門との連携・調整を図ることができる 医療界、看護界の動向に注目し、施設に見合った取り組みができる キャリア開発における機能的な存在として役割を発揮できる。
主な視点		<ol style="list-style-type: none"> 指導を受けながら、看護基準に準じた基本的な日常生活支援ができる 指導を受けながら、担当する患者の観察ができ、フィジカルアセスメントができる 指導を受けながら標準的な看護過程の展開ができる 指導を受けながら、一般的な処置の実施助介、ME機器の使用ができる 指導を受けながら緊急事態に対応できる 指導を受けながら、患者の権利、倫理綱領を理解し意識して行動ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 看護基準に準じた基本的な日常生活支援ができる 担当する患者の観察ができ、フィジカルアセスメントができる 個別性を考慮した看護過程が患者と共に展開できる 指導を受けながら退院支援ができる 部署の特殊な処置の実施助介、ME機器の使用ができる 患者の急変時に対応できる 患者の権利、倫理綱領を理解し意識して行動できる 	<ol style="list-style-type: none"> 経験に基づいた知識と理論を活用して、看護基準を応用した日常生活支援ができる 的確なフィジカルアセスメントに基づいて、潜在的な問題を予測しながら、診断補助やモニタリングを行い、その結果を的確に査定し対処できる 自らの専門分野において、習得した知識や経験を基に的確な看護過程を展開し、ケアの質の評価ができる 社会資源を活用し、退院支援ができる 患者の緊急事態時に、迅速に対応し、リーダーシップが発揮できる 患者の権利、倫理綱領を理解し、患者の意思決定の支援ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 経験に基づいた知識と理論を活用して、看護基準・手順を応用した日常生活支援ができる いかなる状況下においても、判断と行為を同時進行しながら臨機応変に医療問題を含む問題の解決ができる 複雑な問題を持つケアを、多職種と協働し、エビデンスに基づいた看護過程を展開でき、ケアの質の評価ができる 実践された看護の概念化を行い看護の質の向上を図ることができる 退院支援の指導・評価ができ、よりよい地域連携を推進できる 患者急変時や緊急事態発生時に、多職種を巻き込みリーダーシップが発揮できる 部署で起こりやすい倫理的問題を把握し、患者の生命や人権を尊重できるように支援推進することができる
看護サービス実践能力と倫理	日常生活の援助 診療の補助行為 看護過程と記録 倫理	<ol style="list-style-type: none"> 指導を受けながら、看護基準に準じた基本的な日常生活支援ができる 指導を受けながら、担当する患者の観察ができ、フィジカルアセスメントができる 指導を受けながら標準的な看護過程の展開ができる 指導を受けながら、一般的な処置の実施助介、ME機器の使用ができる 指導を受けながら緊急事態に対応できる 指導を受けながら、患者の権利、倫理綱領を理解し意識して行動ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 看護基準に準じた基本的な日常生活支援ができる 担当する患者の観察ができ、フィジカルアセスメントができる 個別性を考慮した看護過程が患者と共に展開できる 指導を受けながら退院支援ができる 部署の特殊な処置の実施助介、ME機器の使用ができる 患者の急変時に対応できる 患者の権利、倫理綱領を理解し意識して行動できる 	<ol style="list-style-type: none"> 経験に基づいた知識と理論を活用して、看護基準を応用した日常生活支援ができる 的確なフィジカルアセスメントに基づいて、潜在的な問題を予測しながら、診断補助やモニタリングを行い、その結果を的確に査定し対処できる 自らの専門分野において、習得した知識や経験を基に的確な看護過程を展開し、ケアの質の評価ができる 社会資源を活用し、退院支援ができる 患者の緊急事態時に、迅速に対応し、リーダーシップが発揮できる 患者の権利、倫理綱領を理解し、患者の意思決定の支援ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 経験に基づいた知識と理論を活用して、看護基準・手順を応用した日常生活支援ができる いかなる状況下においても、判断と行為を同時進行しながら臨機応変に医療問題を含む問題の解決ができる 複雑な問題を持つケアを、多職種と協働し、エビデンスに基づいた看護過程を展開でき、ケアの質の評価ができる 実践された看護の概念化を行い看護の質の向上を図ることができる 退院支援の指導・評価ができ、よりよい地域連携を推進できる 患者急変時や緊急事態発生時に、多職種を巻き込みリーダーシップが発揮できる 部署で起こりやすい倫理的問題を把握し、患者の生命や人権を尊重できるように支援推進することができる
マネジメント能力	目標管理 リーダーシップ タイムマネジメント リスクマネジメント セルフコントロール ストレスマネジメント 経営参画	<ol style="list-style-type: none"> チームメンバーとしての役割を果たすことができる 部署の目標、チーム目標を理解し、メンバーの一員として目標達成に貢献できる 随時、報告、連絡、相談ができる 緊急時の対応が指示を受けながら実施できる 医療事故防止標準マニュアル、感染防止対策マニュアルに沿って行動できる 自己の健康管理ができる 支援を受けながら受け持ち患者の業務を時間内に終了することができる コスト意識を持つことができる 	<ol style="list-style-type: none"> メンバーシップを取りつつ、日々のリーダーの役割を果たすことができる 組織目標を理解し、部署の目標と課題に対して役割行動をとることができる 状況に応じた報告、連絡、相談ができる チームの業務調整、メンバーの調整を行うことができる 緊急時の初期対応ができる 医療事故防止標準マニュアル、感染対策標準マニュアルに沿って行動できる 自己の健康管理ができる コスト意識を持ち、経験に基づき優先順位をつけながら日常のケアを効率的に行うことができる 	<ol style="list-style-type: none"> チームリーダーの役割を果たすことができる(委員会・グループ 会合) チームの目標達成ができるよう率先して活動できる 医療事故および院内感染を防止するための行動を実践し、メンバーに指導ができる 自己の感情をコントロールし、メンバーの心身のコントロールを配慮することができる ワークライフバランスを取りつつ、メンバーの役割モデルになることができる 部署の看護業務を把握し、経営参画の視点で、改善と省力に向けて取り組むことができる 専門職としてケア能力を活用し、地域社会に貢献できる 	<ol style="list-style-type: none"> 管理的視点でリーダーシップをとることができる 部署の目標が達成できる 新たな情報を取り入れて、医療事故の防止、院内感染予防について、取り組むことができる スタッフのストレスマネジメントを支援し、職場の問題として、看護長と解決策を検討することができる スタッフのワークライフバランスを考慮した支援ができる 経営参画の視点で、改善と省力に向けてスタッフを巻き込んで取り組むことができる 専門職として、看護ケア能力を活用して、地域社会に貢献できる
対人関係能力	コミュニケーションと人間関係の調整	<ol style="list-style-type: none"> 自ら挨拶し、患者家族とコミュニケーションをとることができる 同僚、先輩、上司の助言を正確に理解できる 院内暴力、セクシャルハラスメント・パワーハラスメントに気づき相談ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 患者家族と良好な人間関係を築くことができる 同僚、先輩、上司と良好なコミュニケーションをとることができる 院内暴力、セクシャルハラスメント・パワーハラスメントへの対応ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 患者、家族、医療チームとよい関係を保ち、必要な調整ができる 他部門・外部(医療従事者、業者)の人と良好なコミュニケーションをとることができる 院内暴力・セクシャルハラスメント・パワーハラスメントへの対応ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 患者、家族、医療チームの関係に問題が生じた場合その関係性を修復できる 他部門と良好なコミュニケーションをとり、調整することができる 院内暴力、セクシャルハラスメント・パワーハラスメントへの対応ができ、相談に応じることができる
教育・研究能力	学生後輩の指導 自己学習・研鑽 研究活動	<ol style="list-style-type: none"> 部署の特徴的な知識、技術を主体的に学習し、重傷患者の観察、ケアができる能力を習得する 	<ol style="list-style-type: none"> 研修者に対して教育的に関わることができる 新人のプリセプターができる 看護実践過程について研究的な視点で分析し、取り組むことができる 	<ol style="list-style-type: none"> スタッフ育成ができる プリセプターまたはアソシエイトナースの役割を果たすことができる できる能力を評価し自発的にキャリア開発の計画を立てることができる 既存の研究成果を臨床で活用すると共に臨床実践に直結する看護研究を行うことができる 	<ol style="list-style-type: none"> 看護実践モデルとなる 臨床実践の質向上のため、研究に率先して取り組むことができる 自己のキャリア開発をしつつ、スタッフのキャリア開発の支援ができる
	研修	院内研修 BLS研修 災害医学概論、災害看護概論、静脈ラダーⅠ	トリアージ研修(実技研修、トリアージタグ記載) ILS研修 事例検討会、事例発表会(2年目)ローテーション研修、静脈ラダーⅡ	災害看護研修、静脈ラダーⅢ	災害中堅研修 看護研究
		院外研修 新人看護職研修(フィジカルアセスメント、セルフメンタル、多重課題、医療安全Ⅰ、接遇コミュニケーション、倫理) 看護過程 看護を語ろう	リーダー研修、プリセプター研修 災害看護論Ⅰ～Ⅲ 医療安全研修Ⅱ フォロワーシップ研修	チームリーダー研修 リーダーシップ・メンバーシップ研修 看護研究 医療安全研修Ⅲ、看護倫理、JPTC研修、家族看護	教育担当者研修
	災害医療	<ol style="list-style-type: none"> 災害医療、災害看護の概念が理解でき、災害発生時に指示を受けながら行動できる 	<ol style="list-style-type: none"> 災害発生時のセンターの役割・機能を理解し、災害時の対応が指示を受けながら実践できる 国内外の災害医療に関心を持ち、積極的に情報収集が行える 	<ol style="list-style-type: none"> 災害発生時、部署リーダーとして状況判断と指示ができる 防災訓練で実践・評価の段階的関わりがもてる 	<ol style="list-style-type: none"> 災害発生時、リーダーシップを発揮して多職種との連携・調整ができる(看護部内の統括調整が行える) 防災訓練で企画・実践・評価・修正ができる
	実践・研修の成果	<ol style="list-style-type: none"> 事例を用いて自己の看護をまとめ振り返り発表する 	<ol style="list-style-type: none"> 事例を用いて自己の看護観のレポートを書き発表する プリセプターの役割を通して後輩育成、指導観を明確にし自己の考えをまとめる 日々のリーダーの役割を遂行しリーダーシップについて自己の考えをまとめる 	<ol style="list-style-type: none"> チームの目標管理実践を通してリーダーシップについてまとめる 異動者・後輩指導を通して、スタッフの教育、指導観について自己の考えをまとめる 看護研究を行いまとめる 	<ol style="list-style-type: none"> 部署の目標達成もしくは部署における業務改善について成果・自己の行動をまとめる 部署単位の看護ケアをデータに基づいて評価する 看護研究を行い学会発表する